

10月4日

アシジのフランシス

Franciscus Assisiensis

(1181~1226.10.3)

～フランシスコ会の創始者～



「フランチェスコ」

フランシスコ・デスルバラン

(1658年)

イタリアのアッシジの聖人であり、フランシスコ会 (Ordo Fratrum Minorum) の創始者である彼は、ウンブリア地方のアッシジで、裕福な織物商の家に生まれる。フランシスはこの家庭で、放逸と快楽のうちに青年時代を過ごしていく。

1202年、アッシジとペルージャとの間に戦いが起こり、彼はその戦いに参加するも、捕虜となり、一年間を獄中で過ごすこととなる。その後、病気を患った彼は、壊れた聖堂で祈っている幻を見る。幻の中で「フランシス、私の家が崩れている。直しにきなさい」という声を受け、回心に至る。

回心した彼は私財を投げ、サン・ダミアノ教会などの修復を行うが、彼が教会のために金銭を使うことを嫌った父親と対立することになる。

その後、フランシスはマタイ 10章 7～19節の御言葉(行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。～)に打たれ、キリストに従い、清貧と愛に生きることを決意する。そして1208年、跣足説教者の服をまとして説教を始める。

翌1209年には仲間が増え、会則を作った上でローマ教皇の承認を得る。これが「小さき兄弟会」となっていく。

フランシスはその後、スペインやモロッコ、また聖地エルサレムのイスラム教徒に対して宣教を

するため霊的十字軍を起こすが、殉教者を出す結果となる。

彼の伝説は多く残されているが、中でも1224年、アルヴェルナ山で断食をしている途中に、キリストの受難を示す聖痕が肉体に刻印されたのは有名な話である。

またフランシスはキリストの僕として質素に生きていたが、人々に仕えていき、また動物たちをも仲間としていったという。

巡回説教を続けるうちに目を患って視力を失うが、1225年、その病による苦痛の最中に、全被造物を讃える「兄弟なる太陽の歌(太陽の賛歌)」をあらわす。また彼の「平和の祈り」は聖歌集417番「あなたの平和の器にしてください」に採用されている。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたの恵みによって聖霊の愛の炎をその心に燃やしたアシジのフランシスは、公会の燃えて輝く光となりました。どうかその信仰と愛によってわたしたちを燃え立たせ、光の子として常にみ前を歩ませて下さい。主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン